第

3

章

中学校におけるキャリア教育

第3章　中学校におけるキャリア教育

第１節　中学校におけるキャリア発達

１　現実的探索と暫定的選択の時期にある中学生期

中学校は，「小学校における教育の基礎の上に，心身の発達に応じて，義務教育として行われる普通教育を施すこと」を目的としている(学校教育法第４５条)。この時期は，自我の目覚めや，独立の欲求が高まるとともに，人間関係も広がり，社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる時期である。また，他者と関わり，様々な葛藤や経験の中で，自らの人生や生き方への関心が高まり，自分の生き方を模索し，現実的な夢や理想をもつ時期であり，一方で，卒業後の進路選択を迫られ，自分の意志と責任で決定しなければならない時期でもある。このように，中学校の段階は極めて重要である。

社会的･職業的自立は，生徒の発達課題の達成と深く関わりながら，順次段階を追って成り立っていく。中学生期におけるキャリア発達課題は，「現実的探索と暫定的選択」である。そのことを踏まえ，生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立って中学校におけるキャリア教育を推進していくことが重要である。

２　中学校のキャリア発達課題を踏まえた目標設定

中学校３年間での心身の発達は著しく，多様な面での成長や変化をみることができる。それゆえ，中学生期では，多くの発達課題が挙げられるが，その中でも特に，「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」が重要な発達課題となる。各中学校においては，これらの課題の達成を目指し，生徒や地域の実態を踏まえつつ，学校のこれまでの取組などを生かしながら，基礎的・汎用的能力に示される４つの能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)を焦点化し，具体的な目標を設定していくことが必要である。

３　学年ごとのキャリア発達の主な特徴を踏まえた目標設定

学年ごとのキャリア発達の主な特徴は，次のように整理できる。これらは，様々な調査研究等の成果を踏まえ，「平均像」として例示したものであり，どの地域や学校にでもそのまま当てはまるものではない。また，個々の生徒のキャリア発達についても，身体的な発達と同様に，一人一人がそれぞれ固有

１年	２年	３年
●自分のよさや個性が分かる。 ●自己と他者の違いに気付き，尊重しようとする反面，自己否定などの悩みが生じる。 ●集団の一員としての役割を理解し，それを果たそうとする。 ●将来の職業生活との関連の中で，今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ●学習の過程を振り返り，次の選択場面に生かそうとする。 ●将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。	●自分の言動が，他者に及ぼす影響について理解する。 ●社会の一員としての自覚が芽生えるとともに，社会や大人を客観的に捉えるようになる。 ●体験等を通して，勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ●よりよい生活や学習，進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ●将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し，模索する。	●自己と他者の個性を尊重し，人間関係を円滑に進めようとする。 ●社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ●係・委員会活動や職場体験等で得たことを，以後の学習や選択に生かそうとする。 ●課題に積極的に取り組み，主体的に解決していこうとする。 ●将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

出典：文部科学省『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引』平成18年

の発達のプロセスをたどるものであることから，この例示を固定的な標準として適用することはできないが，キャリア発達の視点から各学年の生徒を理解する上での参考資料，各学年での目標設定の際のたたき台などとしては活用できる。

＜キャリア発達の視点からの各学年の重点目標設定（例）＞

学　校　教　育　目　標
自ら学ぶ生徒 ○○○○○○○○○○○… ○○○○○○○○○○○…

◆ 生徒の実態を多面的に分析し整理する。

市内中学生意識調査結果（４月実施）「いま行っている学習は大切だと思う。」				教師の意識
	１年	２年	３年	１年生は，４月に行った「学習の意義を考える授業」の内容について，あまりピンときていなかったようだ。
市平均値	89%	90%	92%	
自校平均値	**80%**	94%	98%	

※他に，前年度の学校評価結果や生徒の各活動における自己評価なども参考にできる。

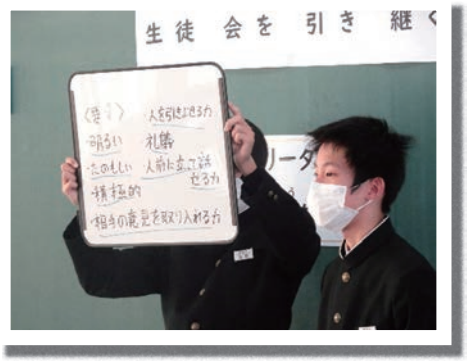
◆ 第１学年生徒の課題を見いだす。

第１学年生徒の課題	中学１年生のキャリア発達の主な特徴
今の学習の必要性や大切さに対する理解が低い。	将来の職業生活との関連の中で，今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。

◆ 中学１年生のキャリア発達の主な特徴を参考にして学年の重点目標を設定する。

第１学年の重点目標
学習の意義を考えるとき，<u>将来の職業生活や生き方と関連させて考えることができる</u>。

第２節　中学生期のキャリア発達課題



キャリア教育は，一人一人のキャリアが多様な側面をもちながら段階を追って発達していくことを深く認識し，子供・若者がそれぞれの発達の段階に応じ，自分自身と働くことを適切に関係付け，それぞれの発達の段階における発達課題を解決できるよう取組を展開するところに特質がある。

中学校においては，社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに，目標を立てて計画的に取り組む態度を，体験を通じてその重要性について理解を深めさせながら育成し，進路の選択・決定へと導くことが重要である。そのためには，中学校の学年段階における発達課題を明確にして，それらを解決できるような取組を計画的に行っていくことが必要である。

１　第１学年の発達課題を踏まえた取組例

第1学年のキャリア発達の主な特徴
① 自分のよさや個性が分かる。 ② 自己と他者の違いに気付き，尊重しようとする反面，自己否定などの悩みが生じる。 ③ 集団の一員としての役割を理解し，それを果たそうとする。 ④ 将来の職業生活との関連の中で，今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ⑤ 学習の過程を振り返り，次の選択場面に生かそうとする。 ⑥ 将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。

実践例《特別活動・学級活動》　岩手大学教育学部附属中学校

題材名「自分のよさと他者のよさを考える学習活動（小学生に中学校を紹介する会に向けた活動を通して）」【対象第１学年】

（１）この題材のねらい

・自分のよさ，他者のよさに目を向け，相互に理解し，認め合うことを大切にして行動できる能力を育む。
・自分のよさを伸ばす機会とし，他者のよさに目を向けることから自分の課題を見いだし，その解決に向け努力できる態度を育成する。

（２）本実践とキャリア教育【関連する発達課題①②】

社会生活を送るうえでは，互いを尊重し合い，自他のよさや可能性に気付き，それを生かして協力し合える人間関係を築くことができるようになることが求められる。学級活動に，このような学習活動を位置付けることにより，他者への思いやりを深め，将来在るべき姿を思い描き，それに向けて努力することが重要であることを感じさせたい。他者に認められる経験は，生徒が豊かな人間関係を築き，将来の夢や希望をもって生きていこうとする態度の育成につながると考える。

（3）全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

主な学習活動	時数
小学生との交流会に向けた事前学習 ・小学生の興味関心アンケート等	1
小学生との交流会準備 ・交流会のねらいの共有 ・発表に向けた準備	4
交流会本番・振り返り	2
自分のよさと他者のよさを考える学習	1《本時》

〈道徳〉
・向上心，個性の伸長
・相互理解，寛容
・よりよい学校生活，集団生活の充実

（4）本実践（本時）の展開

時数	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項　☆キャリア教育の視点 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1　交流会での振り返りをする。	○ グループ活動のなかで，仲間のどのような発言や行動に助けられたかを考えさせる。 ○ 学級全体として，高まった力を共有する。
展開	2　仲間のよさを考え，ワークシートに記入する。 3　グループで互いによさを伝え合う。 ※時間があれば，学級全体で自由に考えを伝え合う時間を設ける。 4　自分のよさや個性について自分が捉えていたことと他者からの評価の差を考えながら分析する。 5　他者のよさに目を向けた経験から，自分に足りない力やもっと付けたい力について考える。	☆ 他者のよさに目を向け，互いのよさに気付くことができるようにする。 ○ グループ活動とし，互いによさを認め合い，尊重できる雰囲気で活動できるようにする。 ☆ 自分が知らなかった自分のよさや個性があることに気付かせる。 ○ 他者からの評価を素直に受け入れる雰囲気づくりをする。 ☆ 自分のよさをさらに伸ばすために，自分のよさ・個性を整理する。 ☆ 他者のよさに目を向けることで，互いの個性の理解につなげる。また，自らで課題を見いだし，よりよい自分になるため，具体的な目標を考えさせる。
終末	6　本時の学習を振り返る。	◇ 自分のよさ，他者のよさに目を向け，相互に理解し，認め合うことを大切にして行動できる。自分のよさを伸ばす機会とすること，他者のよさに目を向けることから自分の課題を見いだし，その解決に向け努力しようとしている。 ☆ 将来，自分の在るべき姿を考えたときに，自分のよさを理解しそれを生かすことや，他者のよさを理解し，尊重することの大切さに目を向けさせる。

（5）実践のポイント

発達の段階を考えると，他者からみた「自分のよさ」を素直に受け入れられない生徒もいるかもしれない。互いに認め合い，尊重し合うことができるような学級の雰囲気をつくることが大切である。また，自分のよさ，他者のよさに目を向けることが，将来の自分の成長につながることを生徒が意識できるように学習活動を行っていくことにより，「自分のよさ」を前向きにとらえられるようになる。さらにそれを伸ばすために，他者と関わり認め合う，集団生活をよりよくするという２つの視点で学級活動を進めていくことで，自己理解の一層の深まり，多様な他者のよさへの気付きとそれによる豊かな人間関係の構築，将来への夢や希望をもつこととつなげていくことができると考えられる。

2　第２学年の発達課題を踏まえた取組例

第2学年のキャリア発達の主な特徴
①自分の言動が，他者に及ぼす影響について理解する。 ②社会の一員としての自覚が芽生えるとともに，社会や大人を客観的に捉えるようになる。 ③体験等を通して，勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ④よりよい生活や学習，進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ⑤将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し，模索する。

実践例《特別活動・学級活動》　津久見市立第一中学校

題材名「16歳の自分に手紙を書こう」【対象第２学年】

（1）この題材のねらい

〔学級活動〕（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」

・「キャリア・パスポート」や保護者からの手紙を読むことで自己の成長や変容を自覚することができる。

・２年後の自分の具体的な姿を想像することで，自己実現に向けての意欲を養う。

（2）本実践とキャリア教育【関連する発達課題④⑤】

本実践は，これまでに行ってきた職業調べや職場体験活動など，働くことや職業に関する学習活動を通して，自己の将来を考えてきたことを進路選択につなげていく重要な学習である。さらに中学校生活の折り返しを迎える第２学年の冬の時期に実施することで，小学６年生から中学２年生までの２年間の自分を振り返り，さらに２年後の１６歳の自分の姿を考えることで，残りの中学校生活をさらに充実させるために必要なことに気付かせる。また１６歳の理想の姿を実現するために進路選択について考え，進路実現に向けて取り組もうとする「キャリアプランニング能力」の育成を目指す。

本実践では，自分自身の振り返りをより充実させるために「キャリア・パスポート」や保護者からの手紙を活用した。「キャリア・パスポート」の活用では，小学６年生から中学１年生の内容までの自らの記録を見つめ直すことで，自分自身の成長と変容を確認することができる。さらに自己評価だけではなく，身近な保護者の手紙を読み，周りから成長を認められることによって，自己理解の更なる深化をねらう。

（3）全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

【事前】
職業調べ
職場体験活動

→

学級活動
16 歳の自分に手紙を書こう
（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」　本時（1／2）

→

【事後】
上級学校調べ
先輩と語る
進路学習

（4）本実践（本時）の展開

時数	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項　☆キャリア教育の視点 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1　２年生での行事では，どのようなことがあったのかを振り返る。 2　保護者からの手紙を読む。	○ これまでの行事を振り返り，どのようなことがあったか思い出させる。 （「キャリア・パスポート」を活用） ◇ 保護者からの手紙を読むことで中学生になってからの自己の成長や変容に気付くことができる。
展開	3　本時のめあてを知る。 **タイムカプセルレターをつくろう。** 4　手紙の内容を確認する。 手紙の内容に入れること ・16 歳の自分がどのような自分になっていたいか ・そのためにがんばること	○ 本時のめあてを知り，タイムカプセルレターについて説明する。 ☆ 実際に未来の自分に手紙を送ることを伝え，16 歳の自分がどのような姿になっているのかを想像させる。 ☆ 16 歳でどのようなことをしていたいのか，イメージをもたせる。
終末	5　班の中で書いた内容を宣言して，班員からアドバイスをもらう。 6　次時の連絡をする。	◇ これからの自分が頑張りたいことを宣言することができる。 ○ 次時では実際に手紙を書くことを伝える。

（5）実践のポイント

これまでの中学校生活を振り返るために行事の写真や動画などを準備すると，自己の成長や変容を実感しやすくなる。また懇談会などを利用して保護者への説明することで，手紙の内容も充実し，生徒が保護者からの手紙に涙を流すなど，その効果を最大限に発揮することができる。

3　第３学年の発達課題を踏まえた取組例

第3学年のキャリア発達の主な特徴
①自己と他者の個性を尊重し，人間関係を円滑に進めようとする。 ②社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ③係・委員会活動や職場体験等で得たことを，以後の学習や選択に生かそうとする。 ④課題に積極的に取り組み，主体的に解決していこうとする。 ⑤将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

実践例《特別活動・学級活動》　東京都立武蔵高等学校附属中学校

題材名「一人一人のキャリア形成と自己実現」【対象第３学年】

（1）この題材のねらい

学習指導要領第１章総則の第４の１の(3)では，「生徒が，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう，特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて，キャリア教育の充実を図ること。」と特別活動を要とするキャリア教育の充実が示されている。

個々の生徒が将来における職業生活に備え，自身の将来の生き方を描き，学校で学ぶことと社会との接続を意識して社会的・職業的な自立に向けた資質・能力を育成することは，自己実現を図る上での今日的な課題である。現在の学習が将来の社会・職業生活の基盤になることを自覚し，他者との関わりを通して自己の将来に関する考えを深めることは，生涯にわたって学び続けることの大切さを認識することにもつながる。

中学校卒業後の就職や進学について，具体的な進路先の決定をゴールとせず，自己の興味・関心に基づいて自己を見つめ，これまでの活動を振り返り，自分の将来の生き方や生活に見通しをもち，意思決定を行うことが重要である。

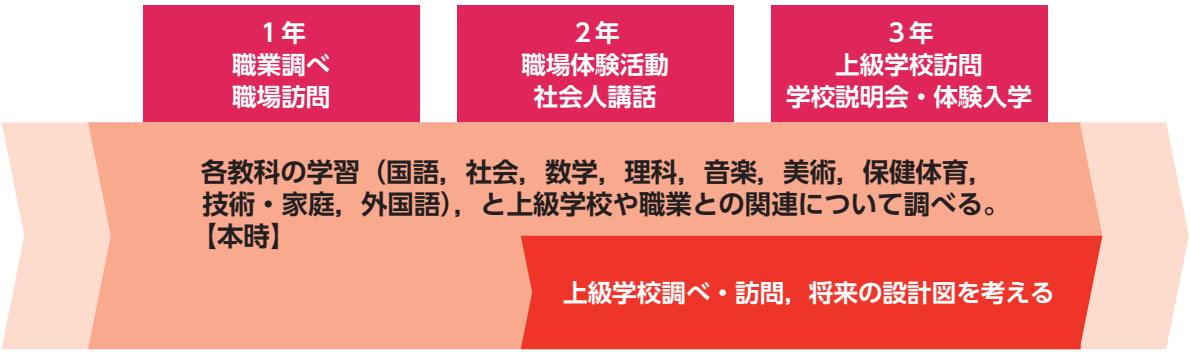
（2）本実践とキャリア教育【関連する発達課題③】

本実践は，現在の学習内容が自己の将来の職業生活や社会と，どのようにつながるかを考えるものである。また，これからの学びや生き方を見通し，これまでの活動を振り返るなどして自らのキャリア形成を図ることで「キャリアプランニング能力」の育成を目的とする。

体験活動によらない学習活動において，多様な情報を収集して，学ぶこと，働くこと，生きることについて考え，それらの結び付きを理解する。身近な職業人などの体験談や今日的な環境の変化について，正しい情報を収集し，特定の職業や学校，生き方に限定されないよう選択の幅を広げる。その過程で，学ぶことと働くことを関連させ，自身の考えを積み重ねていく。そして，一人一人の個性を大切にしな

がらも，多様な他者との協働を通して，人間関係や社会を形成し，社会の形成者の一員として，自己実現を図っていくことが必要であることを理解させる。

（3）全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）（第１-３時/５時間）



（4）本実践の展開（第１時～第３時）

時数	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項　☆キャリア教育の視点 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第1時	1　学習事項の振り返りと共有 ・各グループで１つの教科・項目を選択し，これまでの学習で印象的な項目を振り返り，グループで共有する。	☆ 学習事項と職業や社会のつながりについて考える。
第2時	2　学習事項と関連する学問や職業を考える。 ・各グループでアイデアを出し，学級内で共有する。 例：音楽・能楽師による和楽器演奏体験 →歴史（室町時代の伝統芸能） →音楽（発声や稽古の方法） →国語（専門用語や言語の理解） →外国語（日本文化の伝え方） →情報技術（動画配信，コンサート） →美術（衣装や舞台のデザイン） など	◇ 学習事項と学問や職業について広い視野で考えることができる。 ☆ 勤労や職業と自己実現との関係について考え，勤労観・職業観を醸成する。 ○ 特定の職業や学校，生き方に限定されないように留意する。
第3時	3　関連する上級学校や職業を考える。 ・各自が興味・関心をもった分野について，インターネットや書籍，学校案内等を用いて調べ，自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見いだす。	☆ 自己の興味・関心に基づいて自己を見つめる。 ◇ 適切な情報を得ながら，自己の将来像を描くことができる。

（5）実践のポイント

学校行事や校外学習等などの固定的な学習活動にならないよう，１年～３年の各教科の学習において学んだことを振り返るように伝えるなどの工夫をする。また，日頃の生活や学習が将来の生き方に関連があることを認識させ，単に具体的な進路先を決定するための学習にならないようにする。

第3節　キャリア教育推進のためのカリキュラム・マネジメント

中学校学習指導要領(平成29年告示)では，学校教育に関わる様々な取組を，教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し，教育活動の質の向上につなげていくカリキュラム・マネジメントに努めるよう定めている。取組を組織的かつ計画的に進めるためには，運営を担う具体的な組織を決定し，教育課程の編成を含めたカリキュラム・マネジメントに関わる取組を各種計画に明確に位置付けることが重要となる。キャリア教育に関する学習活動もカリキュラム・マネジメントに関わる取組として，「全体計画やそれを具体化した年間指導計画などの各種計画に具体的な取組を位置付けること」,「具体的な組織を決定して進めていくこと」,「生徒が，学年末や卒業時までに『○○ができるようになる』など，具体的な目標(身に付けさせたい力)を設定すること」が必要である。

1　各学校における身に付けさせたい力(資質・能力)の設定

(1)「身に付けさせたい力」の設定の重要性

キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書(令和3年10月)によると，生徒が学年末や卒業時までに「○○ができるようになる」など，具体的な目標を立てることが重要だと感じている学級担任は95．8%，取組の目標や方法，育てたい力などを教師間や校務分掌間で共通理解を図ることを重要視している学級担任は93．4%と，ほとんどの学級担任が，具体的な目標(身に付けさせたい力)を設定し，組織で共通理解を図ることを重視している。

経営理念が学校ごとに異なっているように，キャリア教育の全体目標も学校理念や児童生徒の実状，地域の状況に応じて異なる。そのため，目標は学校教育目標，生徒の実態，教師や保護者の願いなどの「内部統合の視点」と，社会の要請，都道府県や市区町村の方針などの「外部環境の視点」の２つの視点を踏まえ，設定することが望まれる。その際，目標は「生徒の目指す姿」として卒業時点の状態を想定して，生徒に「身に付けさせたい力」を具体的に設定することが必要である。そうすることで，組織で共通理解を図ることができると同時に，学校外に対し，学校がどのような力を生徒に身に付けさせようとしているかを示すこともできる。

(2)事例で見る「身に付けさせたい力」の設定

《事例１》朝来(あさご)市立朝来中学校

小中９年間を通した「身に付けさせたい力」の設定についての事例である。

〈事例の特徴〉
・質的な見取りだけでなく，全国学力・学習状況調査等を活用し，量的な実態把握をした上で，キャリア教育目標や系統的な身に付けさせたい力を設定している。

・身に付けさせたい力を教師と生徒が共有し，生徒自身が自らの成長を実感できるよう，身に付けさせたい力を廊下に掲示することで，生徒も常に意識しながら振り返ることができている。
・身に付けさせたい力とアンケート項目がつながっているため，児童生徒の変容を具体的に把握でき，教育活動の改善に生かすことができる。

● 小中連携の体制

各校で身に付けさせたい力等について考え，小中連携キャリア教育部会にもち寄って擦り合わせを行う。

● 現状分析に基づくキャリア教育の全体目標の設定

教師による質的な見取りに加え，全国学力・学習状況調査，キャリアアンケートによる量的な現状分析を行うことで，より現状に基づくキャリア教育の全体目標が設定できる。

〈教師による見取り〉（○：長所，●：短所）
【小学校】
○まじめで，規範意識が強い。
●失敗を回避しようとするあまり，新たな挑戦をためらう。
【中学校】
○他者への思いやりのある生徒が多い。
○ボランティアへの参加者が多く，事例校の伝統となっている。
●負荷に対して弱く，すぐにあきらめたり立ち止まったりする生徒が多い。

〈「全国学力・学習状況調査」・「キャリアアンケート」による分析〉（○：長所，●：短所）
○自分のよい所を認めることができている。
○人の役に立ちたいと思っている児童生徒が多い。
●「難しいと思うこと」に挑戦しようとしていない児童生徒が多い。
●「自分の将来に見通しをもち，目標に向けて継続的に努力すること」に課題がある。
●負荷に対して弱く，すぐにあきらめたり立ち止まったりする児童生徒が多い。

【キャリア教育目標】
「生涯を見据え，夢に向かって自ら考え学び続ける心豊かな児童生徒の育成」
～先を見通し　ねばりづよく　挑戦し続ける　朝来っ子～

● 身に付けさせたい力を系統的に設定

中学校卒業時の目指す生徒の姿を基に，身に付けさせたい力を系統的に設定。

【中学校卒業時に身に付けさせたい力】
自尊感情や自己効力感を高めるとともに，直面した課題に対して，先を見通しながら，あきらめることなく粘り強く挑戦する力

【中学校卒業時に身に付けさせたい力】 自尊感情や自己効力感を高めるとともに，直面した課題に対して，先を見通しながら，あきらめることなく粘り強く挑戦する力		
学年ごとに具体的な姿として設定	第３学年	・他者の意見も取り入れながら，工夫して発言することができる ・自発的に地域のために行動することができる ・自分のよさを理解し，伸ばしていくことができる ・目の前の課題を解決するために考え，行動することができる ・将来の夢を達成するために努力することができる
	第２学年	・自分の意見を発言することができる ・地域のために行動を考えることができる ・自分の長所，短所について考えることができる ・課題を自ら発見することができる ・自分の将来について，体験を通して考えることができる
	第１学年	・他者の意見を聴くことができる ・地域のよさや課題を知ることができる ・自分の個性や適性に関心をもつことができる ・何事にも粘り強く取り組むことができる ・様々な生き方について知ることができる

【小学校卒業時に身に付けさせたい力】 自分の強みや弱みを把握し，うまくいかないことがあった時には，その理由を論理的に考え，挑戦することができる力		
学年ごとに具体的な姿として設定	第６学年	・自信をもって発言，行動することができる ・仲間と協力し，新しいことに挑戦することができる ・一つ一つのことに全力に取り組み，振り返り，次に生かすことができる
	第５学年	・友達のよさを認め合い，尊重できる ・どのようなことにも笑顔で挑戦することができる
	第４学年	・自分の役割を自覚し，クラス全員で協力することができる ・自ら進んで，自主的に学習に取り組むことができる
	第３学年	・自分のよいところを知り，皆のために生かそうとすることができる ・自分にできることを考え，進んで行動することができる
	第２学年	・友達のよいところを見付けて言葉で伝えることができる ・自分のできることを使って友達を助けることができる
	第１学年	・大きな声で発表することができる ・友達と協力することができる

● キャリアアンケートの実施

・身に付けさせたい力を基に，キャリアアンケートを作成。

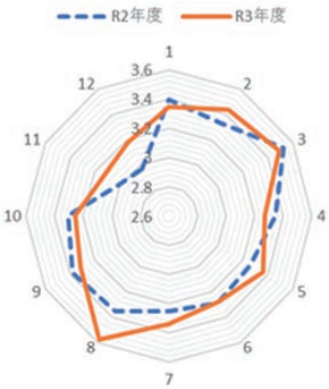
・小中連携キャリア教育部代表者会において，各校のデータをもち寄り，前年度のデータと比較しながら，よくなった点や課題を整理。

①相手の考えや気持ちを受け止めて話を聞く。
②工夫しながら自分の考えや気持ちを伝える。
③自分から役割や仕事を見付けたり，周囲と力を合わせたりして行動する。
④自分の興味や関心，長所や短所などについて，自分から理解する。
⑤やる気が起きないことでも，自分がすべきことに取り組む。
⑥不得意なことや苦手なことでも自分から進んで取り組む。

⑦分からないことなどについて，進んで資料や情報を集めたりしようとする。
⑧失敗したときなど，同じような問題が起こらないようにするためのことを考える。
⑨見通しをもって計画に進めたり，工夫したりする。
⑩学ぶことや働くことの大切さや，学んでいることと将来とのつながりを考える。
⑪将来について具体的な目標を立て，実現のための方法を考える。
⑫将来の目標に向かって，努力したり，生活や勉強の仕方を工夫したりする。

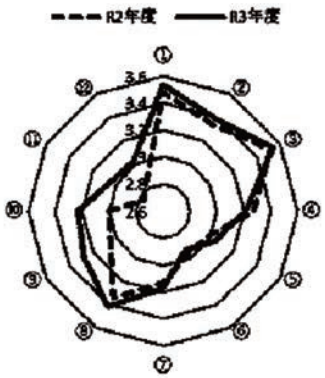
児童生徒の変容

【小学校】



「課題対応能力」（チャート⑦，⑧）や「キャリアプランニング能力」（チャート⑪，⑫）が高まっている。

【中学校】



生徒の「キャリアプランニング能力」（チャート⑩～⑫）が高まっている。

〈更なる充実のポイント〉
・定期的に生徒の実態を把握し，必要に応じて身に付けさせたい力や活動計画の修正を図る等，常に生徒の実態に応じた支援ができるように改善を図る。

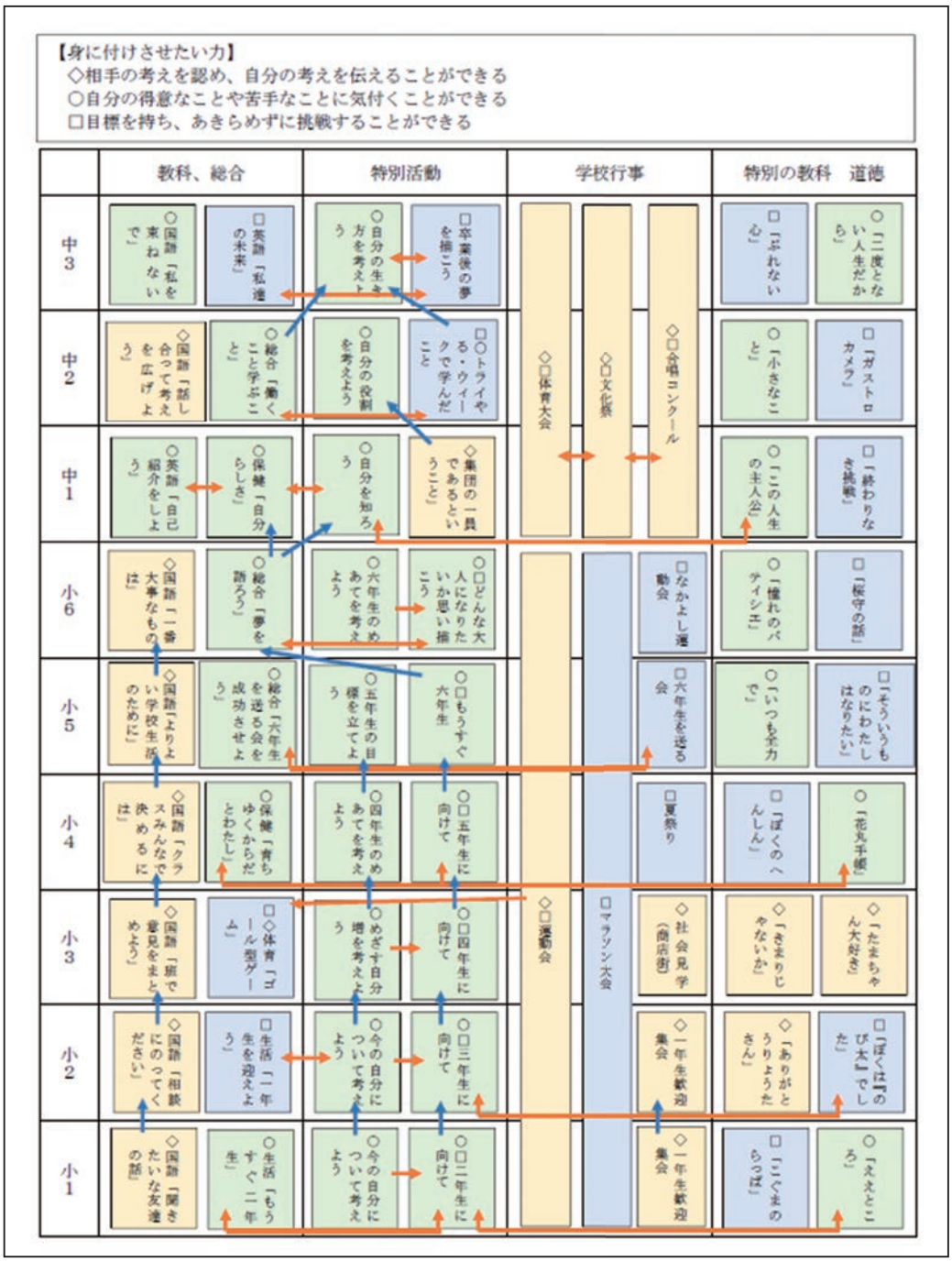
《事例２》朝来市立朝来中学校

身に付けさせたい力で９年間をつなぐカリキュラム作成の事例である。

〈事例の特徴〉
・中学校区として，身に付けさせたい力を設定し，それを基に９年間を通したカリキュラムを作成している。
・詳細な計画は学年ごとに作成するものの，主な活動を系統的に整理し，矢印で関連を示すことで，教科等や学年のつながりの全体像を意識しながら，教育活動を行うことができる。

① 学習内容を，学年（縦）とカテゴリー（横）のマトリクスに整理。
②「身に付けさせたい力」ごとに設定した記号（◇，○，□）を，学習内容につける。
③ 学習内容の関連を矢印でつなぐことにより，各学習内容のつながりや学年間の系統性等の全体像を共通理解できる。

【取組を通して身に付けさせたい力や心情】【身に付けさせたい力】
◇相手の考えを認め，自分の考えを伝えることができる。
○自分の得意なことや苦手なことに気付くことができる。
□目標をもち，あきらめずに挑戦することができる。



〈更なる充実のポイント〉
・カリキュラムとして整理するだけでなく，教科間，学年間で，教師が，それぞれの教育活動における生徒の姿等を普段から共有する等の工夫をする。

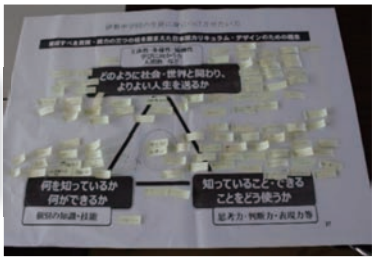
《事例３》鹿児島市立伊敷中学校

キャリア教育という表現を使わずに，基礎的・汎用的能力の育成を目指す「ルーブリック評価表」を作成し，生徒が自己評価をする事例である。

〈事例の特徴〉
- 育成を目指す資質・能力を①課題発見力，②情報活用力，③論理的思考力，④協働する力，⑤メタ認知の５つに設定し，ルーブリック表を作成した。
- 評価場面を７場面設定し，生徒の自己評価と教員による評価を分析して，次の活動に生かした。

● 事例校が育成を目指す資質・能力の決定

ルーブリックを作成するにあたり，全職員で育成を目指す資質・能力を考えた。その際，これからの社会予想と，全国学力・学習状況調査等の学力調査や授業中の様子等から得られた生徒の実態の二つの視点から考えるようにした。職員からは資質・能力について多くの案が出されたが，それらの意見を集約し，育成を目指す資質・能力を以下の五つに決定した。



資質・能力の3つの柱で能力を整理した写真

①課題発見力　②情報活用力　③論理的思考力

④協働する力　⑤メタ認知

● ルーブリックの作成

五つの資質・能力ごとに，その成長の度合いを４段階で表現したルーブリックを作成した。各段階は学年ごとに到達してほしい姿としている（卒業時に到達してほしい姿→レベル４，中学２年生修了までに到達してほしい姿→レベル３，中学１年生修了までに到達してほしい姿→レベル２，入学時点の姿→レベル１）。作成に当たっては，生徒が具体的なイメージをもちやすいように，それぞれの資質・能力を発揮している場面のイラストや吹き出しを挿入した。作成したルーブリックは，活用方法や評価方法とともに生徒と共有した。

● 汎用的な資質・能力ルーブリック

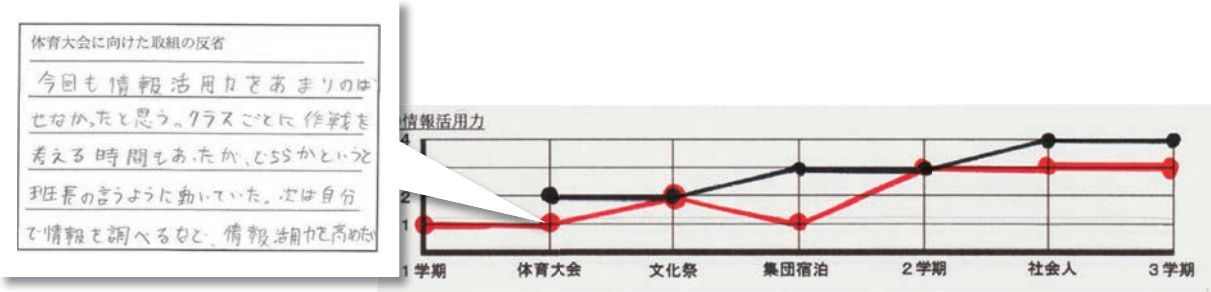
	課題発見力 課題を見つけ、解決しようとする力	情報活用力 目的に沿った情報を集め、活用する力	論理的思考力 様々な視点から筋道立てて自分の考えを説明する力	協働する力 他者と意見交換しながらよりよい考えを作り出す力	メタ認知 学んだことを自覚し、次の学習に生かそうとする力
レベル4	4 授業や学校の生活の中で、自分で課題に気付き、改善しようと思うことがありますか。	4 情報を比較したり、絞り別けたり、確かめたりして実際に生かすことができますか。	4 様々な視点から物事を判断し、筋道を立てて、解決策を考えることができますか。	4 話合いで自分の意見を主張しつつ、異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、ゆずり合ったりして、よりよい考えをつくり出すことができますか。	4 学習した内容を基に、生活の中の様々な問題を解決することができていますか。
レベル3	3 「学習することが日常生活や将来、役に立ちそうだ」と思いながら、授業を受けることができていますか。	3 集めた情報の中から、自分に必要なものを取り出したり、整理したりできますか。	3 自分の考えとその根拠や理由をわかりやすい言葉や方法を用いて説明することができますか。	3 お互いの考えの共通点、相違点を比較したり分類したり関係付けたりするなど整理することができますか。	3 授業を通して、新たな気付きや疑問をもつことがありますか。
レベル2	2 学習課題を理解したら、その課題をどうやって解決するか、考えることができますか。	2 情報を集める方法をいくつか考え、実際に複数の情報を集めることができますか。	2 根拠を基に自分の考えをもち、その根拠を用いた理由を説明して、自分の考えを説明することができますか。	2 お互いの考えを出し合い、考えの共通点や相違点を見つけることができますか。	2 授業の過程を振り返り、どんな活動をしたことによって、自分の理解が深まったかを考えることができますか。
レベル1	1 授業の中で、学習課題を理解して、取り組むことができていますか。	1 課題を解決するために、どんな情報が必要かを考えることができますか。	1 根拠（体験や資料に書いてあること、データ）を基に自分の考えをもつことができますか。	1 話合いなどで他の人に自分の考えを伝えることができますか。	1 授業で学習した内容を振り返り、できたことやわかったことを自分の言葉でまとめることができていますか。

● 資質・能力の評価

五つの資質・能力が育成されているかを把握するために，定期的に評価を行った。評価場面は，右の７場面とした。なお，生徒による自己評価と教師による直感的な見取りによる評価の両方を実施することとした。

評価場面（１年生の例）
①１学期末
②体育大会実施後
③文化祭実施後
④集団宿泊学習実施後
⑤２学期末
⑥社会人に学ぶ（総合）実施後
⑦３学期末

生徒による自己評価については，個人の成長度合いを４段階の折れ線グラフで表現させ，さらにその理由を文章で記述させるようにした。なお，グラフの各段階は，ルーブリックのレベル１から４に対応している。自身の資質・能力の成長を折れ線グラフで記録させることで，目に見えない資質・能力を生徒自身が捉えやすくなると考えた。また，グラフの上昇や下降の理由を文章で記述させることで，成長した理由が生徒個人の中で明確になり，資質・能力の成長を自覚できると考えた。

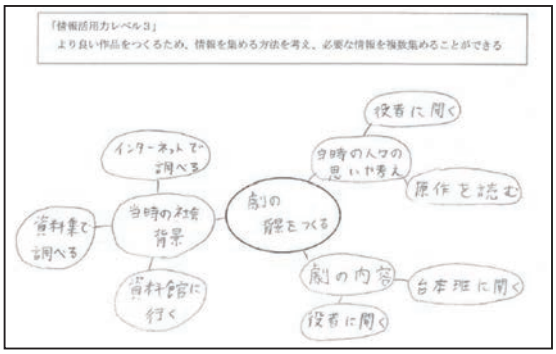


● 生徒による自己評価の活用

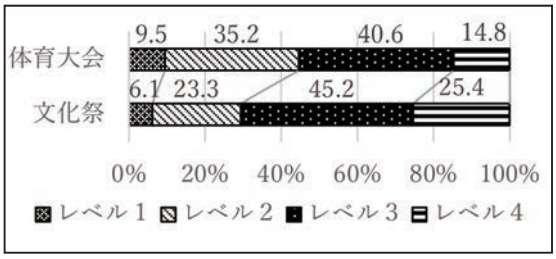
生徒による自己評価は全生徒分を集約し，次の活動に生かすようにした。

体育大会実施後の評価では，特に情報活用力の値が低かった。その結果を全職員で共有し，文化祭では情報活用力の向上を目標に教育活動を行った。例えば，学年劇の背景を担当するコースでは，背景の資料を探す際，必要な情報の種類やその収集方法を生徒同士で話し合う場を設定した。

文化祭実施後の評価では，情報活用力の評価についてレベル１，２と評価する生徒が減り，レベル３，４と評価する生徒が増えた。



情報活用力レベル３



〈更なる充実のポイント〉
・評価結果を学校行事に生かす経験を踏まえ，日常の教科学習に生かす取組も充実する。

２　各学校におけるキャリア教育全体計画・年間指導計画の作成

（１）キャリア教育全体計画・年間指導計画の作成の重要性

キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書（令和３年10月）では，平成24年度に実施した調査との比較を掲載している。それによると，中学校でキャリア教育全体計画を作成していると回答した割合は，81.3％から89.9％へ，年間指導計画を作成していると回答した割合は76.7％から80.8％へと増加しており，キャリア教育の計画の作成は進んでいることが分かる。

その計画を着実に実施するためには，学校の教育活動全体を通じて行うキャリア教育を効果的に進めていくことが求められる。学校では，校長のリーダーシップのもと，校内の組織体制を整備し，学年や学校全体の教師が共通の認識に立って指導計画の作成に当たるなど，それぞれの役割・立場において協力して指導に当たることが重要である。作成した計画を効果的にするためには，まず自校の生徒の現状を把握し（現状把握），卒業段階における望ましい生徒像（目標）を設定することが必要となる。また，日常的に自校の生徒理解に努めている教師が現状把握や目標設定から関わることにより，より具体性をもった指導計画の作成ができる。

（2）事例で見るキャリア教育指導計画の作成

《事例１》

キャリア教育全体計画の作成を若手教師研修に位置付けて取り組んだ事例である。

〈事例の特徴〉
・研修には各学年主任が参加し，若手教師は助言を受けながら研修を進めた。
・作成した計画に基づいて取組を進めるときは，若手教師が進捗管理を行った。

全体計画作成の流れ

①「授業における生徒の課題」「教科の目標を達成するために生徒に身に付けさせたいこと」について全教師にアンケートをとってまとめる。

② キャリア教育を進めるために，生徒の現状を把握し達成すべき課題を設定する。

・アンケート結果を受けて，生徒の課題と先生の思いをまとめる。
・次に，まとめた結果を受け，全校で取り組める具体的な学習や活動について考える。
・最後に，それらの学習が基礎的・汎用的能力のどれに位置付けられるかを考える。

③ キャリア教育推進のための柱を設定し，全体目標設定の準備をする。

キャリア教育を進めるにあたり，『ツナグ』をキーワードとしていくつかの柱を設定し，キャリア教育の全体目標を設定する。
〔設定のポイント〕
［１］卒業時点の状態を想定して表現する。
［２］○○できる，○○できると思える，などの形で言語化する。
［３］検証が可能な形にする。

④ キャリア教育推進の柱それぞれについて，各教科等での具体的な展開を考える。

柱について，道徳科，総合的な学習の時間及び特別活動での具体的な取組を考える。

⑤ これまでの内容を踏まえて，キャリア教育全体計画の核となる体験活動を設定する。

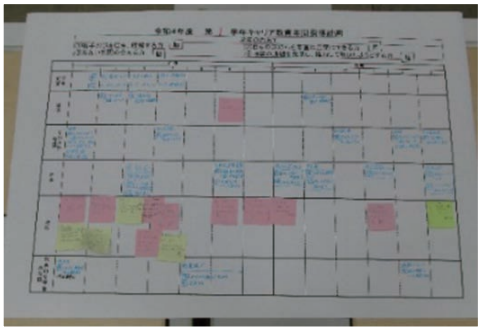
中核となる体験活動を中心に据え，その活動が充実するための事前学習と事後学習をそれぞれ３つずつ設定する。その際，キャリア教育推進のための柱（A，B，C）のどれに関係する取組なのか，いつ，どの教科等で実施する内容なのか，基礎的・汎用的能力の重点にどう関わるのかなどの詳細を書くようにする。

〈更なる充実のポイント〉
・評価の視点を明確にし，「キャリア・パスポート」を計画に位置付けるなどして，学校全体で取組の評価の視点や方法を共有する。

《事例２》足立区立第十二中学校

全教師が関わる「模造紙を用いた年間指導計画作成」の事例である。

〈事例の特徴〉
・学校の全教師が関わって各学年の年間指導計画を作り上げた。
・身に付けさせたい力を何度も確認しながら，具体的な取組を計画に位置付けた。



研究主題
生徒一人一人のキャリア形成を実現するための指導方法の工夫・改善
～特別活動を要としたカリキュラム・マネジメントを意識した教育実践を通して～

事前準備

○ 学年ごとに教師が話し合い，学年の生徒に「身に付けさせたい力」を挙げる。

○ 挙がった力を研究推進委員会で整理し，４つに絞り込む。それらを，「学校全体で身に付けさせたい力」として設定する。

○ 決定した「学校全体で身に付けさせたい力」それぞれに関連する学習内容，学習活動を各教科担当で考え，まとめておく。

各学年の年間指導計画作成の流れ

① 各教科で考えた学校全体で身に付けさせたい力それぞれに関連する学習内容，学習活動を付箋紙に書き，大きく印刷した学年ごとの年間計画の枠に貼り付ける。

②「特別活動」「道徳科」「行事」「総合的な学習の時間」について，学校全体で身に付けさせたい力に関連した実施内容を付箋紙に書き，年間計画の枠に貼り付ける。

③ 年間計画全体を見渡し，学年の生徒に身に付けさせたい力を枠の上部に書き込む。

学校全体で身に付けさせたい力	各学年の生徒に身に付けさせたい力
○ 相手の話を聴き，理解する力 ○ 自らの気持ちを素直に言葉にできる力 ○ お互いを認め合える力 ○ 物事の課題を発見し，協力して解決しようとする力	（第１学年）話をよく聴き理解する力，お互いについて理解する力 （第２学年）感謝の気持ちを伝える力 （第３学年）相手の話を正しく理解し，実行する力

・身に付けさせたい力を基礎的・汎用的能力で分類し，学校として特に育成を目指す基礎的・汎用的能力を焦点化する。

事後の振り返り

○ よい雰囲気の中で話合いができたことで，様々な生徒の話題を聞くことができ，生徒理解が深まった。

○ 設定した力が，基礎的・汎用的能力のどれに位置付くかを考えることで，生徒に身に付けさせたい力を整理することができた。

〈更なる充実のポイント〉

・作成した計画をどのように活用するかについて考える。

例１　生徒が見るなら各学年の廊下に貼る。

例２　来校者が見るなら学校の玄関に貼る。

例３　地域の方が見るなら学校の外の掲示板等に貼る。

（コラム）先進校の「キャリア教育年間指導計画」

次の計画は，仙台市立南光台東中学校の第３学年「自分づくり教育年間指導計画」です。仙台市では，「仙台版キャリア教育仙台自分づくり教育」として，授業や学校行事，部活動などの様々な体験を通して，「たくましく生きる力(みとおす力，みつめる力，かかわる力，うごく力，いかす力)」を更に伸ばす教育を推進しています。南光台東中学校の年間指導計画では，５つの力のうち，３つに重点化した上で，それぞれの力の具体化を図っています。学期ごとに１回の「自分づくりノート(「キャリア・パスポート」)」を計画に位置付け，評価を次の目標設定に生かす取組を計画的に進めています。

仙台市立南光台東中学校　第3学年　自分づくり教育年間指導計画

協働型学校評価到達目標	自分はかけがえのない存在であることを理解し，自信を持って行動できる生徒の育成		
自分づくり教育の目標	生徒が自ら学ぶ意欲を持ち，人や社会との関わりを大切にしながら，将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育む。		
3学年で重点化する力	①みつめる力	②かかわる力	③みとおす力
	・自分の良さを理解できる力 ・自分の役割が分かる力 ・ストレスをコントロールする力	・望ましい人間関係をつくる力 ・進んで考えや気持ちを伝え合う力 ・人や地域を大切にし，協力する力	・将来をみとおす力 ・自分の目標を設定する力 ・目標達成のために計画を立てる力

	4	5	6	7	8・9	10	11	12	1	2	3
行事	入学式 始業式 対面式 授業参観	修学旅行	市中総体 避難訓練	合唱ｺﾝｸｰﾙ 県中総体 三者面談	小鉄人発表会 生徒会役員選挙	終業式 始業式 体育祭	三者面談 ｷｬﾘｱ教育講話 ﾌｧｲﾅﾝｽﾊﾟｰｸ	三者面談	私立高入試 (A 日程)	私立高入試 (B 日程)	公立高入試 三年生送る会 卒業式
	単元テスト(随時)　実力考査			実力考査(2回3回)	実力考査(4回)			実力考査(5回)			
教科	美術：自画像で自分の思いを表現しよう。①	英語：基本文を用いた文をみんなで作ろう。②	音楽：合唱で異学年と交流しよう②	数学：二次方程式を学び合おう。②	国語：スピーチで社会に思いを届けよう。②	理科：仲間と協力して光の道筋の規則性を見いだそう。②	社会：国際社会で働くために大切なことを考えよう。③		保健体育：現代的ﾘｽﾞﾑのﾀﾞﾝｽで異学年と交流しよう。②③		技術・家庭：よりよい生活を目指そう。③
総合	【修学旅行②】 ・広い知見と豊かな情操を養う ・適切な判断力や行動力を培う ・情報の取捨選択，表現力を高める		【小鉄人発表会②】旅行的行事を入り口に課題設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現を通して情報を活用して自ら考える力を養う。			【ファイナンスパーク③】 お金に関する意思決定と進路選択			【卒業に向けての準備学習】① ・自己を見つめ，表現する		
	【進路学習③】卒業生による講話等から，将来への見通しを持ち，自分の生き方を見つめ，たくましく生き抜く力を身に付ける。自己実現を図りながら，進んで社会に貢献しようとする態度を培う。										
特活・道徳	【たく生き】「何を学び，どう生かすのか」③		【たく生き】「しなやかﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ」①			ﾌﾞｯｸﾄｰｸ「あなたの未来」。①③					【たく生き】「将来に繋をつなぐ」③

社会へ接続するために必要な力について理解させる。（自分づくりノート１回目）

様々な変化をしなやかに捉えることができるようにする。

自分と向き合うことの価値について本を介して考えさせる。（自分づくりノート2・3回目）

「自分づくりノート」を活用し，様々な課題を乗り越え成長してきたことに気付かせ，高校生活への意欲を高める。（自分づくりノート4回目）